

シグマ研究委員会

「医学用核データ原子分子データのリクエスト調査」のた めの ad hoc 委員会第 1 回会合議事録

日 時 昭和 56 年 5 月 23 日 (土) 11:00～
場 所 原研本部第 7 会議室
出席者 原田 (原研, 委員長), 伊藤 (医科研), 浦橋 (日大医),
尾内 (癌研), 川島, 喜多尾 (放医研), 塚田 (日大原研),
野崎 (理研), 久武 (工大理),
宮永, 阿部, 沼宮内, 田中, 浅見 (原研)

配布資料

1. 核データ・センター紹介のための資料
2. 「核データ」について, 喜多尾憲助: 「放射線科学」18, 121 のコピー
3. A Survey of Nuclear Data Use in Applied Fields ,
M. Lederer et al. IAEA-SM 170/46, p. 449 のコピー
4. Sources of Atomic and Nuclear Data for Biomedical
Purposes , P. D. Holt, Phys. Med. Biol. 24, 1-17 (1979)
のコピー
5. IAEA/NDS の岡本氏から野崎氏への手紙 (1981 年 5 月 5 日附)
(IAEA Consultants' Meeting on Nuclear Data for
Medical Radioisotope Production, Vienna 13-15 April
1981 関係の資料付)

議 事

1. ad hoc 委員会会合の主旨の説明 (原田)
日本での医学用核及び原子分子データのリクエスト調査を行いたい。
IAEA/NDS の岡本氏からの要求もあった。従来, シグマ研究委員会

では、原子力開発のための核データ活動を行ってきたので、医学用データについては全く未経験の分野であるので御協力をいただきたい。なお、この委員会では、リクエスト内容を原研レポートその他の方法で公刊するほか、国際機関へ通報するなどして、結果を活用して行きたい。

2. 自己紹介

簡単な自己紹介を行った。

3. 必要データに関する自由討論

約1時間どのようなデータが必要であるかについて自由討論を行った。
主な発言は次の通り。

- 治療用としては例えば中性子データを例にとると、エネルギーの高いところのデータが必要になってくる。30 MeV 以上では良いデータが少なくなる。
- 中性子データとしては20 MeVまではENDF/B-V を、それ以上ではみつけたデータを使っている。
- KERMA factor のレポートが原研にあることがあまり知られていない。
- 原子分子データはどうか。
- 例えば水の electron cross section が欲しい。データ集はまだ作られていない。
- アイソトープ製造の観点からは、isotopeが安全に、pure なものができればよい。現在欠けているものは荷電粒子反応の励起関数、半減期の値は必要である。

4. 質問状の送付先の範囲

- どの範囲に質問状を出したらよいか。医学とうらはらの線量計測は含めたい。biologyは含めるべきか、薬学までは含める必要はないであろう。などの討議のあと、アンケート調査の送付先などについて、次のような関連学会(部会)に問い合わせることにした。また専門項目の素案に対するコメントももらうことにした。

日本医学放射線学会	物理部会（尾内氏）
	生物部会（岡田重文氏）
放射線影響学会	（織田氏），（稲田氏：筑波大）
保健物理学会	（宮永氏）
核医学会	（野崎氏），（飯尾正宏氏：東大医）
アイソトープ協会	（山崎文男氏），（加藤貞武氏）
日本原子力学会（保健物理）	（沼宮内氏），（織田氏）
応用物理学会放射線分科会	（道家忠義氏）
日本物理学会放射線分科会	（織田氏）

5. 幹事の選定

今後質問状の作成作業や結果の集計作業などを進めて行く上で、便利ないように幹事を置くことにした。喜多尾氏と沼宮内氏を幹事として選定し、質問状作成送付作業などを委員長、幹事、事務局（核データセンター）で行うことにした。

関連学会（部会）からの返事は7月15日頃にもらえるよう作業を進めることにした。

以 上